

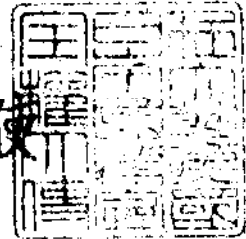
政第3640

昭和44年11月14日

外務大臣殿

在大韓民國

全州臨時代理大使



全州局長との会談

11月14日外務部金全州局長は、新任  
操場のため往訪した野田参事官と対し、  
沖繩問題及び遺骨問題につき要旨次の  
とおり述べた趣きあり、併し、併せて  
本日の御報告する。

1. 沖繩問題

韓国は沖繩問題の帰還に非常な強



い関心をもって注目している。日本が、アジアの安  
全保障を十分意欲に入れて交渉にのぞかれ  
るものと信頼しているが、佐藤、ニクソン共同  
声明の内容如何によつては、若干の  
reaction がある可能性がある。

### 2. 遺骨問題

日本側より申入れという徳嶺島の遺骨  
調査団派遣の問題については、韓王側と  
こゝの交渉知識もなく受け入れのわけに  
も行かぬので、日本内務部を通じて  
調査を行つておる。調査団の派遣に  
ついての回答はその調査の結果を見直し  
で行ふといふので、暫時お待ちください  
たい。

在日韓国人遺骨の返還問題について

一括返還と求め、韓日側の態度には変わりな  
い。目下進めている個別方式は、緊急なもの  
と促進のための便法としては有益であるが  
、日本側からの方式により原則海を  
回避しつつ大部分の遺骨返還と行われ、とす  
るならそれも結構と思う。(例外的に縁故  
者の確認による、しかも数十件残すところ  
が、生事等は考慮される) したがって、北鮮に  
存籍が如何なる返還の場とどうなるかは  
北は韓日側は、~~建~~前上を対峙し得るに  
なる。この北は、近年の懸案を早く解決し  
たいという気持は、例外的であつた。北は北に  
なつた。